

# JICA教材開発者がお伝えする、 JICA教材を授業で使うヒント！

「SDGsを知らない方にも手にとってもらえるものになればいいな。」  
そんな想いがつまったJICA教材「共につくる 私たちの未来」  
今回は、製作担当者のJICA地球ひろばの白石さんと八星さんに、  
GiFTの辰野がお話を伺いました。



## この教材にこめた想いは？

SDGsを知らない人へ届けるために製作が決まった今回の教材。もともと「毎日小学生新聞」に掲載していた記事をまとめました。JICAは世界各国で国際協力活動を行なっていて、途上国の現状はもちろん、課題解決に取り組んでいる人たちの事例をたくさん持っています。SDGsや世界の現状を、事例や現地の子どもの声と共に紹介することで、日本の子ども達にとって遠い国の出来事ではなく、自分ごととして考えられるきっかけになれば、という想いでこの教材を開発しました。

## 今回紹介いただいたこの教材のおススメポイントはどこですか？

オススメ

### ① 1つの事例からSDGsの関連性を読み解く

各ゴールのページでは、そのゴールについて知るだけでなく、事例を通じて社会課題の背景にある様々な課題の関わりについて考えるきっかけを提供しています。

例えば、ゴール1「貧困をなくそう」をテーマにしているホンジュラスの事例(P6/7)を見ると、貧困問題だけでなく、そもそも計算力が低いという教育についての課題があること。さらに、ハリケーンや防災・まちづくりについての課題があることが見て取れます。それぞれの写真を見るだけでも様々なゴールに繋げて考えることができますし、各ゴールのページにある問いを使って、テーマについてさらに深く調べる・考えることも可能です。小学校低学年の児童には少し難易度の高い資料かもしれませんが。その場合は「この中でどの写真に興味ある？」など興味づけから始めるのも良いかもしれません。



教材の基本的使い方→[ココ\(P3\)](#)をクリック！！

オススメ

### ② 開発教育の真髄は「途上国 ≠ かわいそう」

各ページでは、課題解決に向けて自らアクションを起こしている地元の人たちを多く取り上げています。希望と共に活動する人や、現地の幸せそうな笑顔の写真などを通じて、「貧困＝かわいそう」という一辺倒のイメージではなく、何が本当の問題なのか、児童・生徒と一緒に考えていききっかけにいただけると嬉しいです。

オススメ

### ③ 「世界の中の日本」からSDGsを自分ごとに

SDGsを通して世界について学んだ上で「世界の中の日本」について考えることができるページ(P42)も作っています。途上国と先進国のゴール達成状況を色分けして表現しており、世界の達成状況や同じゴールを課題とする国々の共通点、その中で日本はどのような状況になっているのか・・・と視点を動かしながら考えられます。世界を学んだ上で日本のことを考え、自分ごとに落とし込むようになります。

SDGsにしても、国際協力にしても、正解が用意されているわけではないと思います。「これってどういうことだろう？」という持続可能なものの考え方や、見方に17項目があるんだと知ったり、世界中に知恵や経験を持ってがんばっている人がいるということを知ってもらいたいです。そして、是非、この教材を授業に活かしていただきたいです。1つのゴールからでもいい！活用事例の発信が、次の誰かの一歩になるので、ぜひ聞かせてください！

( JICA地球ひろば 推進課: mptgp@jica.go.jp )



その他の教材も→[こちら](#)から取得できます！